

(1) 就学前児童保護者 <報告書 3頁～75頁>

○地域における子育て支援について

- ・子育てを楽しんでいる(72.3%)が最も多い。
- ・子育てで不安や悩みを抱えているかについては
悩み不安や悩みがすごくある(15.9%) + 少しある(69.2%)で、計85.1%。
- ・食事や栄養(39.8%)、子どもの発育・発達(39.1%)、教育(36.3%)に関する悩み・不安が多い。
また、産後の不安や負担(75.8%)についても高い回答。
- ・産後の支援サービスでは、宿泊サービス(57.1%)や育児技術指導(23.6%)への需要がある。
相談窓口の利用には相談しやすい雰囲気(87%)、アクセスしやすさ(66%)が重視。
- ・危ない行動(95.7%)や友だちへの態度(63.6%)公共の場での迷惑(60.9%)に関して、親が子供に注意をすることが多い。

○保護者の就労形態について

- ・母親のフルタイム勤務率は上昇している(33.2%)
- ・週5日勤務(73.7%)が最も多い。
- ・母親のフルタイムへの転換希望はあるが、実現は困難な状況(24.5%)。
- ・育児休業の取得率は上昇している。(母親(58.8%)、父親(19.3%))

○ご家族の状況について

- ・アンケート記入者は主に母親(84.1%)で、父親(10.3%)の割合は微増。
- ・子育ては母親(59.7%)が中心だが、父母共同(37.1%)のケースも増加。親子の接触時間は10時間以上(35.2%)が最も多い。

○子どもの権利や日野市の子育て支援について

- ・子どもの気持ちを聴くように意識しているか
常に(71.1%) + ときどき(26.8%)で、計97.9%。
- ・子ども条例の認識度は非常に低い現状。
名前は知っているが内容は知らない(45.5%) + 名前も内容も知らない(37.4%)で、計82.9%。
- ・市の支援策では、子育て費用の助成(70.9%)、保育サービスの充実(57.4%)、遊び場整備(74.6%)が重視。
- ・情報は主に市のリソース(55.9%)を主に利用しているが、市以外のインターネットやSNSから(37.1%)という回答が増加。
- ・子どもを育てる環境として重視するのは、安全に生活できること(65.7%)、自由にのびのび遊べる場所(54.7%)。

(2) 小学校児童保護者 <報告書 76頁～122頁>

○地域における子育て支援について

- ・子育てを楽しんでいる(62%)が最も多い。
- ・子育てで不安や悩みを抱えているかについては
悩み不安や悩みがすごくある(21.6%) + 少しある(64.5%)で、計86.1%。
- ・教育(48%)や友だちづきあい(34.3%)発育発達(33%)に関する不安が多い。
- ・相談窓口は広く知られ、多くの親が子育ての相談先を持っている(82.7%)一方で、相談できる人がいない(16.6%)が増加。
- ・地域に見守られていると感じるかについては、とても見守られているが(7%)、どちらかと言えば見守られているが(31.6%)

○保護者の就労形態について

- ・母親のフルタイム勤務率は上昇している(34.3%)、
- ・子どもが病気の際、母親が休むケース(69.6%)が多いが、父親が休むケース(33.8%)も見られる。
病児保育施設の利用(0.2%)は少なく、家族や知人がサポート(12.8%)。
- ・仕事と子育ての両立支援について、児童館(69.1%)や学童クラブ(41.8%)ひのち(66.6%)の利用経験が多い。
課題としては、家事・育児の負担の大きさ(66.8%)や子どもと過ごす時間が短い(53.6%)との回答が多い。

○放課後の過ごし方について

- ・子どもに過ごさせたい場所は、自宅(低学年(47.7%)、高学年(60.9%))、習い事(低学年(46.8%)、高学年(55.7%))が高く、低学年は学童クラブ(27.1%)ひのち(33.4%)、高学年は公園等(35.2%)の需要も多い。
- ・遊び場については、無料で利用できる施設(65.4%)やスポーツができる場所(60%)遊具がある場所(60.2%)広い場所(57.9%)への需要が高い。

○ご家族の状況について

- ・子どもの身の回りの世話は主に母親(68.6%)が高いが、父母ともに(28%)の割合を見ると、父親の関わりも増加している。
- ・親子の日々の交流時間は平均5～6時間(17.7%)。

○子どもの権利や日野市の子育て支援について

- ・子どもの気持ちを聴くように意識しているか
常に(60%) + ときどき(36.8%)で、計96.8%。
- ・子ども条例の認識度は非常に低い現状。
名前は知っているが内容は知らない(49.3%) + 名前も内容も知らない(34.5%)で、計83.8%。
- ・市の支援策では、子育て費用の助成(60.4%)、遊び場の整備(69.5%)、犯罪から子どもを守る体制整備(52.1%)が重視。
- ・情報は主に市のリソース(61.3%)を主に利用しているが、市以外のインターネットやSNSから(37.1%)という回答が増加。
- ・子どもを育てる環境として、安全に生活できることが重視(67.9%)

(3) 小学5年生 <報告書 123頁～133頁>

- ・学校が楽しい(45.6%) + どちらかといえば楽しい(38.4%)で、計84%と、楽しいという回答。
放課後が楽しい(74.8%) + どちらかといえば楽しい(18.7%)で、計93.5%と、同じく楽しいという回答が多い。

- ・学校が楽しくない理由は友人関係(47.4%)、放課後が楽しくない理由は塾や習い事(60.7%)

- ・放課後・休日は家族と過ごす(91.5%)が最も多く、次いで学校のともだち(57%)。
誰と過ごしたいかは、学校のともだち(42.7%)が最も多く、次いで祖父母や親せき(32.4%)

- ・放課後や休日を過ごす場所は自宅(94.2%)が最も多く、次いで公園(53.8%)塾や習い事(36.2%)、友人の家(32.3%)。
- ・過ごしたい場所は友達の家(35.3%)が最も多く、次いで自分の家(27.2%)、祖父母親せきの家(27.4%)

- ・遊ぶ時間は、平日は2～3時間未満(26.8%)、休日は7時間以上(22.5%)が多い。
- ・宿題や習い事に費やす時間は、平日(35.1%)、休日(26.8%)とも1～2時間未満が多い。

- ・自宅での時間は、楽しい(73%) + どちらかといえば楽しい(21.3%)で、計94.3%と、楽しいという回答が多い。
楽しくない理由では、家族と過ごすのが嫌(28.8%)、自由がない(24.7%)いつも一人(21.9%)等と回答。

- ・悩みや相談事は特にない(54.5%)が最も多いが、勉強(18.9%)や友だち(11.5%)学校でのこと(8.9%)で悩んでいる等の回答がある。
- ・相談相手は、親(74.8%)が最も多く、次いで友人(56%)学校の先生(33.2%)きょうだい(27.8%)で、いずれも前回から割合が大幅に増加。相談したくない(6.8%)の割合は減少。

- ・自己肯定感については、自分には良いところがあると思う(41%) + どちらかといえばそう思う(39.6%)で、計80.6%。
将来の夢や目標を持っている(57.3%) + どちらかといえばそう思う(24.9%)で、計82.2%。

- ・「子どもの権利」については、安心して居られる場所がある(70.3%)いじめや虐待を受けない(64.2%)学んだり遊んだり休息する(62.5%)が、権利としての認識度が高い。

- ・日常で楽しいと感じるのは、友だち(86.1%)や家族(75.9%)という時間が多く、次いで学校(49.6%)や1人での時(47%)習い事(43.4%)という回答。
家族との時間や1人での時間の回答率は増加傾向。

(4) 中学2年生

<報告書 134 頁~147 頁>

- 自己肯定感については、自分に良いところがある(37.4%) +どちらかといえばそう思う(36.6%) で、計 74%、将来の夢や目標がある(31.1%) +どちらかというと思う(29.8%) で、計 60.9%。
- 学校生活は、楽しい(42.7%) +どちらかといえば楽しい(34%) で、計 76.7%と楽しいという回答が多い。
楽しくない理由では、自由がない(33.7%)、授業が分からない(32.6%) いやな友だちがいる(29.5%) 等と回答。
- 悩みや相談事は特にない(44.1%) が最も多いが、悩みとしては勉強のこと(34.8%) が多い。
- 相談相手は親(63%) 友だち(62.8%) が最も多く、次いで学校の先生(27.6%) と回答。
- 放課後は楽しい(62.1%) どちらかといえば楽しい(22.6%) で、計 84.7%と、楽しいという回答が多い。
楽しくない理由では、勉強や塾(48.3%) が最も多い。
- 放課後に過ごす場所は自分の家(42.9%) が一番多い。
家にいる時間が楽しいは 65.4%+どちらかという楽しいは 19.4%で、計 84.8%が楽しいと回答。
- 子ども条例の認識度は非常に低い現状。
名前は知っているが内容は知らない(28.3%) + 名前も内容も知らない(61.1%) で、計 89.4%。
- 自分は安心して暮らしていると思う回答は 77.4%。
- 今の生活については、満足(36.7%) +まあまあ満足(41.9%)、で、計 78.6%が満足と回答。

(5) 高校2年生相当

<報告書 148 頁~170 頁>

- 自己肯定感については、自分には良いところがある(55.6%) +どちらかといえばそう思う(29%) で、計 84.6%。
将来の夢や目標がある(45.2%) +どちらかといえばそう思う(28.3%) で計 73.5%。
- まわりの大人にもっと自分の意見を聞いてほしいかについては、思うが 31.5%、思わないが 31.2%、どちらともいえないが 35.8%と回答が分かれている。
- 意見を聞いてほしいことは、自分の進路や進学のこと(67%) が最も多い。
- 自分の気持ちをわかってくれる友達については、たくさんいる(24.7) %、まあまあいる(58.4%)
- 悩みや相談事は、進学や就職に関すること(53.8%) が最も多く、次いで、特にない(36.2%)、学校のこと(24%) と回答。
- 相談相手は、友だち(76.3%) や親(71.3%) が多い。
- 放課後・休日については、楽しい(70.3%) +どちらかという楽しい(24.7%) で、計 95%が楽しいと回答。
過ごす場所は自宅(55.2%) が最も多く、次いで学校(部活動等)(22.9%)。
- 進学については、大学またはそれ以上(74.9%)、短大・高専・専門学校(13.3%) で、計 88.2%と、進学を希望する回答が多い。
- 自分の将来像のイメージをぼんやりとでも描くことができ(75.6%)、イメージの具体化に役立つものは、なりたい職業の体験・見学(68.1%) が最も多い。
- 将来への不安要素は、ちゃんとした収入を得て生活できるか(62.4%) が最も多く、次いで、やりたい仕事が見つかるか(48.7%)、社会人と周囲と上手くやれるか(41.6%)。
- 結婚については、どちらでもいい(34.4%)、無理にする必要はない(31.2%)、した方がいい(27.2%)。
- 子どもを持つことのイメージは、自分の子どもはかわいいと思う(49.5%)、子どもを持って育てたい(37.3%)、自由な時間がなくなる(27.6%)、子育て等にお金がかかり負担が大きい(44.8%)。
- 子ども条例の認識度は非常に低い現状。名前は知っているが内容は知らない(27.6%) +名前も内容も知らない(69.9%) で、計 97.5%。
- 今の生活については、満足(49.5%) +どちらかといえば満足(40.5%) で、計 90%が満足と回答。

(6) 18歳から39歳までの若者

<報告書 171 頁~186 頁>

- 自分の暮らしに満足しているかについては、満足(37.3%) どちらかといえば満足(45.4%) で、計 82.7%が満足と回答。
- 自分の将来については、希望がある(35.8%) どちらかという希望がある(42.4%) で、計 88.2%が希望があると回答。
希望がない理由としては、経済的な不安(58.9%)、社会情勢への不安(17.9%) と回答。
- 子どもが欲しい、既に子供がいる(74.2%)、子どもを欲しいと思わない(16.6%)
- 子どもが欲しくない理由としては、経済的な余裕がない(33.3%)、育てる自信がない(24.4%)
- 子ども条例の認識度は非常に低い現状。名前は知っているが内容は知らない(14.4%) +名前も内容も知らない(80.8%) で、計 95.2%。

(7) 子育て関連事業者・団体

<報告書 187 頁~200 頁>

- 保護者の抱える悩みや問題については、発育・発達に関すること(80.6%) が最も多く、次いでしつけの仕方(55.6%)、食事や栄養(52.8%)、登園しぶり・不登校(47.2%)
- 児童虐待の背景・原因・要因は、しつけと虐待の違いへの理解不足(69.4%) と核家族化(69.4%) 最も高く、次いで親のストレス(66.7%) 地域の間関係の希薄化(63.9%)、父親(母親)の長時間勤務による母親(父親)の孤立化(52.8%)
- 虐待防止への必要な取組みは、日常的な育児支援サービス・相談機能の充実(50%) 育児不安への早期対応(41.7%) や、関連機関との連携強化・仕組みづくり等。
- 定員増加の際の課題となる要素は、職員の確保(69.4%) が最も多い。他には施設拡張の限界(52.8%)、保育の質の低下(36.1%)、今後の未就学児人口減少(36.1%) 等。
- 今後事業実施検討として、学童クラブ(11.1%)、子育てひろば事業(11.1%) を検討している。
- 保護者が地域に求めるものについては、子育ての相談・情報交換(69.4%)、自由のびのび遊べる場(61.1%) 緊急時の子どもの預かり(52.8%) と回答。
- 子ども条例については、名前も内容も知っている(63.9%) とが最も多く、認識度が高い。

(8) 市内の企業

<報告書 201 頁~207 頁>

- 仕事と家庭の両立(ワークライフバランス) が可能な環境づくりで重要視するのは、労働時間短縮(37%) が最も多い。
- 仕事と家庭の両立(ワークライフバランス) が可能な環境づくりが、会社にとってメリットがあると考え(66.7%)
- 子育て世代が働きやすい職場づくりについて、取り組んでいることは、育児休業の取得・職場復帰しやすい環境づくり(66.7%) が最も多く、次いで有給休暇の取得促進(63%) 妊娠中及び出産後の配慮(59.3%)。
- 今後子どもたちの育ちへの支援として取り組む可能性があるものは、インターンシップや職場体験(48.1%) 次いで地域活動のサポート(29.6%)。
- 子ども条例の認識度は非常に低い現状。名前は知っているが内容は知らない(51.9%) +名前も内容も知らない(37%) で、計 88.9%。